

CIGR2022 Kyoto 開催概要報告

第 20 回 CIGR 世界大会 2022 (The XX CIGR World Congress 2022 in Kyoto) は、2022 年 12 月 5 日から 10 日の期間、京都市で開催された。世界大会は、CIGR(国際農業工学会)が 4 年毎に開催する国際会議であり、1930 年にベルギーで第 1 回大会が開催され、当会議で 20 回を迎える農業工学分野で最も歴史のある国際会議である。日本での開催は 2000 年につくば市で開催された第 14 回以来 22 年ぶり 2 回目となる。本会議を日本で開催することは、世界的な学術組織において日本のプレゼンスを高める好機であるばかりではなく、我が国の農業工学分野の有する研究成果を世界の研究者にアピールし、相互に理解を深め交流を促進する機会を与えることができた。

第 1 日目は、国立京都国際会館にて、理事会と各種委員会（ハイブリッド形式）を行い、夜にはウェルカムパーティを行った。第 2 日目は、国立京都国際会館にて、開会式（ハイブリッド形式）で本学会会長 野口伸氏が開会挨拶を述べた後、来賓の日本学術会議副会長 菱田公一氏、CIGR 会長 Remigio Berruto 氏、京都大学副学長 村上章氏、農研機構理事長 久間和生氏、中国農業機械学会名誉会長 Xiwen Luo 氏、韓国農業機械学会会長 Kang-Jin Lee 氏、アジア農業工学会会長 岸田義典氏、愛媛大学学長 仁科弘重氏から祝辞を頂いた。その後、講演会（ハイブリッド形式）と企業展示（対面形式）を行った。第 3 日目は、国立京都国際会館にて、講演会（ハイブリッド形式）と企業展示（対面形式）を行い、夜にはバンケットを行った。第 4 日目は、国立京都国際会館にて、講演会（ハイブリッド形式）、企業展示（対面形式）、および閉会式（ハイブリッド形式）を行った。第 5 日目は、オンラインによるバーチャルツアーを行った。最終日は、京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホールにて、市民公開講座「未来の農業」をハイブリッド形式で行った。

会議には 52 の国と地域から 610 名の参加があり、市民公開セミナーには 90 名の参加があった。本会議の研究成果とともに国内外の食料問題、環境問題などを分かりやすく解説して、我が国の SDGs への取り組みを国民と共有し、学術分野としての農業工学への理解を深めた。

(飯田訓久)



